

# こんにちは 庄内町議会



No.34  
12月議会号  
25.1.20

心頭滅却...  
つめたーい



余目空友会  
初稽古

- どうする議員定数 ————— 〈議案〉 2
- 膝を交えて意見交換 ————— 〈議会報告会〉 4
- ここが聞きたい14人の熱弁 — 〈一般質問〉 7
- 視察結果を町に活かせ ————— 〈委員会報告〉 15
- 子どもたちの議会傍聴 ————— 〈特集〉 18

# 「共働のまちづくり」を めざして



議長 富樫 透

新年明けましておめでとございます。昨年、爆弾低気圧も含め多くの自然災害に見舞われた年となりました。今年には已年により復活・再生、上昇の年になってほしいと願わずにいられません。

昨年、議会では災害時の行動指針を定め、避難訓練の継続などで危機管理の対応を図ってきました。活性化の取り組みとしては、反問権と自由討議の導入、倫理条例の制定などを実施してきました。

議会報告会については、例年十月に開催してきましたが、もっと早い時期にとの声にあり、名称も「議会と語る会」として六月定例会前の実施を検討しています。また、より活性化につながる仕組みづくりのために「定数等調査特別委員会」を設置し、①定数②報酬③期末手当④費用弁償⑤委員会費用⑥政務活動費の6項目について、検討することとしました。

「共働のまちづくり」と言われて久しいですが、共働とはひとりひとりがそれぞれの役割を果たす「共働きのまちづくり」が根底にあります。原点に戻り、議会が率先してみなさんと共にまちづくりを実践していきたいと思っておりますので、本年もよろしくお願いいたします。



**要約筆記を表彰**  
わかりやすさに  
貢献

平成15年12月議定会  
例会以来、耳の不自由な傍聴者のため「ばんけの会」「要約筆記やまびこ」の両団体から要約筆記をしていただいています。今定例会の実施で10年目にあたり、多大な貢献をされたことに感謝を込めて表彰しました。

▼「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」みなさんの新春はいかがでしたか？元旦に一年の計画を立てられた方は新年の第一歩を確実に踏まれた方ではないでしょうか。

昨年は師走に国政選挙があった。TPP、原発、税と社会保障の一体化が大きな焦点となった。

新政権では、景気回復の政策を第一として動いているようである。公共事業など早期に結果を出し、国民の期待に応えようとしているのは理解できるが、国民の健康も忘れないでほしい。

本町においても、少子高齢化による世代のアンバランス、国保では保険税の値上がりなどが止まらないなど課題は

多くあるが、国の制度や法律を修正しないと根本的な解決にならない。

国と丁発止で一步一歩確実に課題に取り組むことにより、平成25年が庄内町にとってより良い年になることを期待する。

(齋藤 秀紀)

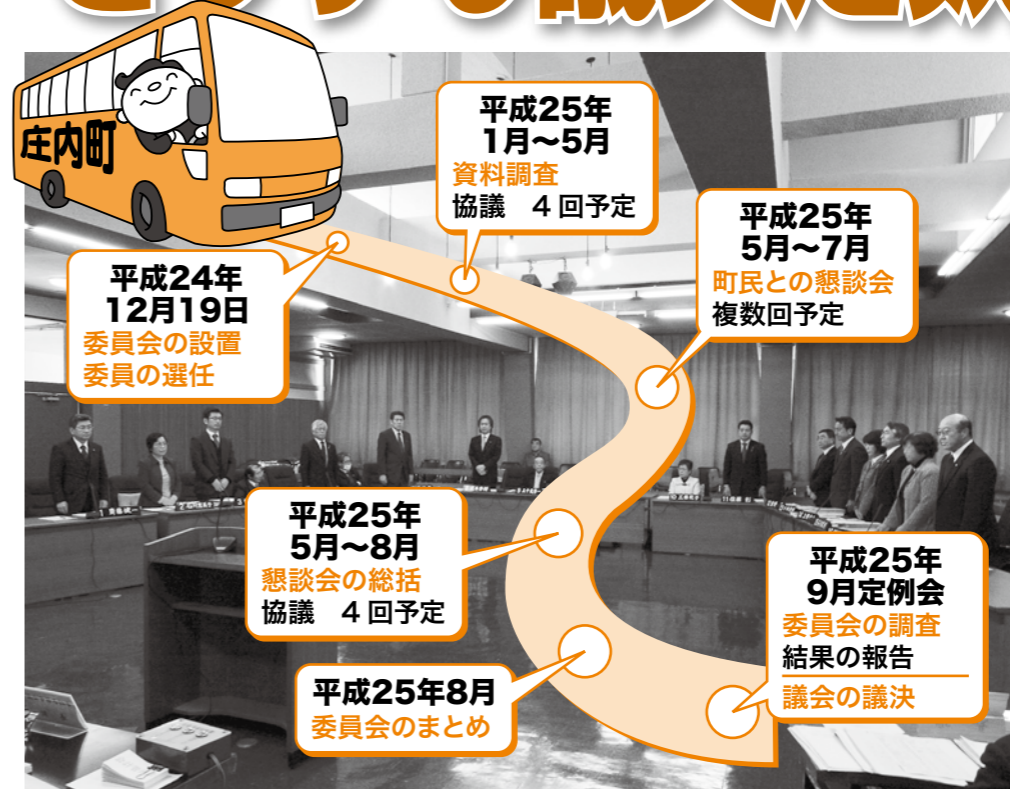
発行人	議長 富樫 透
議会広報調査	特別委員会
委員長	小野 一晴
副委員長	石川 武利
委員	上野 幸美
委員	五十嵐啓一
委員	齋藤 秀紀
委員	榎本 秀将



# 議案

# こんなことを決めました

# どうする議員定数



## 庄内町議会議員定数等 調査特別委員会の設置 同委員会の委員の選任

庄内町議会議員定数等調査特別委員会を設置。議会議員の①定数②報酬③期末手当④費用弁償⑤委員会費用⑥政務活動費の6項目について調査検討します。

委員長 齋藤 健一  
副委員長 石川 保  
委員 榎本 秀将  
委員 工藤 範子  
委員 佐藤 彰  
委員 上野 幸美  
委員 押切のり子  
委員 吉宮 茂

**賛成全員で決定**

平成25年度9月定例会までに結論を出します。それまでの間、町民のみなさんの意見を聞く意見交換会を複数回予定しております。開催日時は、決まり次第報告いたします。ぜひ、ご参加ください。

## 人権擁護委員 改選

平成25年3月31日をもって任期が満了する人権擁護委員について町からの推薦に同意しました。

賛成全員で同意

貢地目	岡本 博
清川	加藤 容 (再任)
猿田町	佐藤多賀子
猿田町	菅原恵美子
興屋	加藤 則代

## あらし

12月定例会は、12月11日から19日までの9日間の日程で開催され一般会計、各特別会計の補正予算、条例改正、請願などを原案どおり可決しました。

一般質問では14人が町政全般について当局の考えをたずねました。

## 補正予算

# 流れた林道を復旧

## 林道興屋線災害復旧工事 636万5千円



浸食された林道

清川地区の興屋集落地内の沢をまたぐ林道が、沢の増水で浸食され20メートルに渡って通行不能になりました。

## 賛成全員で可決

これを、ボックスカルバート（四角いヒューム管）を設置して林道を復旧する工事です。

## 請願

# 地方の声を聞いて下さい 治安維持法犠牲者に謝罪を求める意見書



治安維持法により逮捕連行される人々

## 意見書

ポツダム宣言受諾による終戦の昭和20年に廃止された治安維持法は、政府や軍部に対して批判を許さず、国民を無残な戦争に駆り立てた法律であった。この法律で多くの人々が、言論、思想、集会、結社の自由を奪われ、山形県内の450人を含む全国で7万人を超える方々が送検され拷問により虐殺されたり、獄死した人は1千数百人にのぼった。

## 提出先

内閣総理大臣  
法務大臣  
賛成16、反対1で採択

しかし、国はその犠牲者に対して、いまだに謝罪も賠償も行っていない。諸外国では、ドイツイタリアをはじめ、アメリカ、カナダなど、すでに謝罪と賠償を行っている。よって政府は、直ちに調査し、犠牲者に一日も早く謝罪を行うよう要望する。

## 請願に対する質疑

Q 戦後60年以上も経過した今、なぜこの請願なのか。

A 治安維持法で虐待され、法の廃止後も非国民として迫害された被害者が、自分の権利を主張するまでは長い時間が必要だった。

国連で、戦争犯罪と個人の人權に関わる犯罪には時効を設けないとの条約が制定され、国際的にも同様の事案に、近年になって国として謝罪と賠償をおこなっている。以上のことから、ようやく国内でも環境が整ってきたからである。

Q この問題で謝罪することで、国家間の戦後の謝罪や賠償の問題に飛び火する恐れがあるのではないか。

A 国家間の戦後処理と個人の人權侵害に対する謝罪は別次元の話である。

# 膝を交えて 意見交換!

## 議会に対する質問・意見

### はじめに

町民に開かれた議会及び積極的な町民参加を推進することを旨とし、10月29日から31日にかけて、今年で4回目の議会報告会を各学区で実施しました。議員が3班に分かれ議会活動について報告するとともに、町民から議会活動、町政に対する意見、提言等が出されました。

### 第一公民館

10月31日  
20人参加

**質問** 町の公共事業で、対象地域に対する説明不足の上、議会広報で掲載されていないものがある。

### 第二公民館

10月30日  
15人参加

**回答** ページ数が限られるため重要案件や町民の関心が高いと思われるものについて、町民一人当たり100円程度の借金を抱えている。駅前倉庫事業や温泉施設建設など収支を考え借金を少なくしてほしい。

**質問** 町債累計が132億円に上っており、町民一人当たり57万円の借金を抱えている。駅前倉庫事業や温泉施設建設など収支を考え借金を少なくしてほしい。

### 第三公民館

11月29日  
11人参加

**質問** 町は現在どれだけ借金があるのか。有利な借金と言われるが、実質、町で返済するのはいくらなのか。

**回答** 町は現在どれだけ借金があるのか。有利な借金と言われるが、実質、町で返済するのはいくらなのか。23年度末で132億円です。そのうち実質町で返済する金額は3割となる。



第四公民館

### 第四公民館

10月29日  
15人参加

**質問** 生活保護受給者が有利な生活をしているという話がある。民生委員はどのような判断をしているのか。

**回答** 生活保護を受けている人が有利になることのないように国の法律がある。民生委員の方々は個人情報保護制度の中で対応が大変と聞いている。

### 狩川公民館

10月31日  
8人参加

**質問** 類似町村で庄内町より議員の人数が削減されており、議員定数を削減すべきと思う。

**回答** 12月議会で議員定数等特別委員会を設置し議員定数・議員報酬・期末手当・費用弁償・委員会費用等を、来年9月まで検討し結論を出す予定である。

### 清川公民館

10月30日  
14人参加

**質問** 清川地区の発展についてどのように考えているのか。

**回答** 総合計画に沿って進めている。まず清川をどう発展させるかは自分たちでイメージすることから始まる。歴史公園構想の動きもあり観光による入込客数の期待もでき発展に結びつくのではないかと考えている。

### 立谷沢公民館

10月29日  
14人参加

**質問** 立谷沢地区は過疎化が進んでいる。地域でも地域活性化事業に取り組んでいる。学校や公共施設など利用されていない建物が多くある。これらの施設を利用しての地域振興は考えられないか。

**回答** 立谷沢小学校の跡地利用検討委員会での活用方針案は出来ている。利用者がどの程度あるのか、町としても地域から有効に利用し

ら見ると駐車場が狭い。どう考えているのか。

**回答** 北月山荘は自然条件に恵まれ、町外、県外からの客と、団体客も増えている。まちなか温泉とは競合しないと考えられる。まちなか温泉の駐車場は、庄内たがわ農協、アピアの駐車場と一体的に共用できるように話し合いをしている。

**質問** 立谷沢の保育園は現在5人の子供しかいないため、今後どのような運営になるのか。また、この地域にある「森森」など町の施設の管理や利用の方針は決まっているのか。

**回答** 保育園については町から説明があったと思うが、清川保育園との統合を考えている。議会でも説明を受けている。清川保育園も13人しかいないので、統合については異論はない。施設については、地元の皆さんから方法について提言してもらおうの一番と思う。旧狩川小学校など危機管理面からも問題である。早期に対応するよう町に伝える。



清川公民館

# 膝を交えて意見交換!

第4回

## 町長部局に対する質問・意見

### 第一公民館

**質問** 町内会に徴収を依頼される教育振興費、交通安全育成協力費等について協力はするが、依頼する側の努力と感謝が見て取れない。

**回答** 各種団体の協力費等については、互助精神に基づき税外負担金としてご協力いただいているものと思われる。担当課から、機会をとらえて意見を伝える。

**質問** 教育施設の耐震工事はほぼ100%完了とあったが、学童保育施設が対象になっていないのであれば、対象にしてほしい。

**回答** 余目地域の3カ所はいずれも耐震化されていない。検討委員会を設置し、他市町村の先進地事例も参考にしながら、小学校の余裕

### 第二公民館

教室利用や敷地内の設置等も考慮した上で、早急に整備を図っていただきたいと考えている。

**質問** 廻館から家根合までの広域農道は、交通量が多く道路の劣化がひどくなっている。吉岡地区では側溝に雑草が生えて大雨時には側溝から雨水が溢れ、重大事故につながる恐れがあり対策が必要ではないか。

**回答** 町管理農道の性格から、町道仕様と異なっているが、現地を確認し道路補修や側溝の泥上げ等の対応を行っていく。

また、22年から24年までの3年間でスーパードから余目温海線までの舗装工事をしており、今後も道路状

### 第四公民館

少子化のなか、町の出生率はどのくらいか。また、子育てしやすい環境整備への町の対応はどうか。

**回答** 保育園、学童保育所ともに待機児童ゼロを継続し、子育てしやすい環境の維持に努めている。支援策は、今後も安心して子育てができるよう、他課と連携しながら環境整備に努める。

### 狩川公民館

過去に狩川地区の荒鍋まで津波が押し寄せた記録もある。これを想定したハザードマップの作成が必要ではないか。

**回答** 過去の被害は津波

況を見て実施したい。

ではなく最上川堤防の決壊によるものである。県が公表した津波浸水域予測では、本町への湖上はない。荒鍋はハザードマップを平成19年3月に作成している。

### 清川公民館

旧清川小学校のプールの水はけが悪く夏になると蚊が発生して困っている。使用していないので対処してほしい。

**回答** 排水の点検、水が溜まらない構造への改修を検討する。

### 立谷沢公民館

行政区長会議において、ドクターヘリの運航について説明あったが、一番必要としている立谷沢地区では、ランデブーポイントの関係で利用できないのではないか。特に冬期間は狩川地区に1カ所しかなく、ヘリの要請も救急隊員が容体を判断して要請するシステムになっていないため、時間的ロスが大きく、ドクターヘリ導入の意義がなくなっている。地元では県の説明に対して意見要望を出したが、回答もない状況である。

**回答** 県でも具体的な運航については決まっていない。町でもしっかりと受け止めたい。この件は庄内町だけで解決できる問題ではないので、広域行政組合の席上でも提起する。

詳細は冊子として各公民館に配置または、議会のホームページに掲載しています。

# 激論 町政を問う

一般質問



### 一般質問とは...

議員が行政全般にわたり、町当局に対し事務の執行状況、将来における政策方針等について、報告や説明を求めたうえで、政策提言することです。

### 防災行政無線

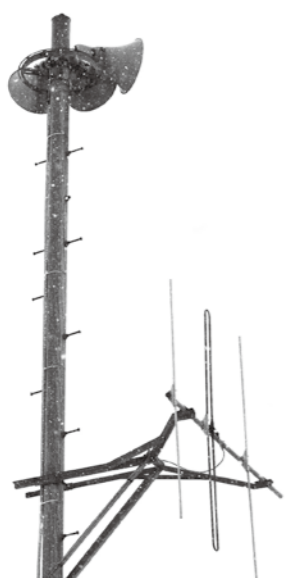
平成34年まで再整備する



齋藤 健一 議員

立川地区の防災行政無線は、昭和58年に整備され老朽化が著しく

通報音が聞こえない、聞きとりにくいなど災害発生時に心配される。地域からの要望がある戸別屋内受信機を設置などを含め、立川地区の防災行政無線の見直しの考えはないのか。また、火災発生時の防災無線による通報を小字名でおこなっている



更新が望まれる、アナログ子局

町長 立川地域の防災行政無線はアナログ方式(余目地域はデジタル方式)で、整備から30年が経過し不具合箇所も増加している。国の規則により平成34年までにはデジタル化への再整備が必要であり、戸別受信機の設置も含め、調査研究していきたい。

火災発生時の放送は当初は大字名と小字名のみであったが、現在は大字名・小字名・集落名の順になっている。ただし、市街地は一括して余目地区、狩川地区として放送しているより分かりやすい放送となるよう消防署と検討したい。

町政が聞きたい

齋藤健一 議員

立川 中学校 歩道設置せよ

町長 補助金精査しながら



清野 等 議員

立川中学校の周辺道路の改良舗装事業は、平成12年に計画され、その後棚上げになっている。今回、国からの通学路安全対策事業に補助



これで通学路？

金対象の通知があった。この機会に、再度取り上げ、補助金を活用して実施に向けて取り組むべきではないか。

町長 立川中学校線の歩道設置は、旧立川町時代から取り組みをしてきた経緯がある。

主要地方道羽黒立川線から狩川桑田交差点までの約360mは、平成12年に測量設計委託を発注し、車道幅員7m東側に3mの歩道を整備する計画になっていた。

国の補助金の充当が可能か等も精査しながら、集落要望の順位に沿って、実施前に地権者の皆さんと意思確認をおこない着手していきたい。

自主防災組織 活動の充実を図れ

町長 女性の視点を加えていく



上野 幸美 議員

現在115集落すべてに自主防災組織が出来たが、活動は地域によって温度差がある。町の交付金などを活



日頃の備えが大事

めにも、自主防災組織マニュアルの中に、女性登用数を明記してはどうか。

町長 自主防災組織連絡協議会は、115全集落の自主防災組織で構成されている。今年度の総会は県のドクターヘリの研修も兼ねておこなった。来年度は現在見直しを進めている地域防災計画の概要を説明

用して、防災備品の整備をしている先進事例がある。自主防災組織連絡協議会での情報交換をおこない活動を平準化し、町民の防災意識の高揚を図るべきである。協議会の開催状況はどうか。東日本大震災に学ぶべきことは多い。女性高齢者、障がい者等に配慮した内容にするたい。

基礎学力 向上を図れ

教委長 できる限りの支援体制をとる



齋藤 秀紀 議員



目指せ 文武両道

低・中位生徒の基礎学力の向上につながるのではない

か。子供たちの学力が向上するように、少人数指導、学習支援員の配置及び副担任制度の導入、あるいは特別な支援が必要な子供には、サポートする人を配置したりとできる限りの支援体制をとっている。

本町独自の特色を持った学習支援員を配置し、生徒一人ひとりの学力向上を図っているが、スポーツが盛ん

なこともあり、今一つ伸び悩んでいる状況と聞いている。なかには学習の基礎が不足しているため、授業についてゆけない生徒がいるのではないか。その子のレベルに合った学習などの検討はないのか。県の「さんさんプラン」では別室登校学習支援についてまとめている。視点を変えれば

別室学級制度は中学校にある。学級に入りづらいという要因が大きい。基礎学力不足も要因と思われる。また、家から出られない子も何人かいるが、教育相談員が登校できるような対応をとっている。別室学級も活用しながら教育相談や家庭訪問などと連動させて支援している。

産地間競争 勝てるブランド作れ

町長 自然と環境に優しい方法で



押切 のり子 議員

「日本一おいしい米コンテスト」は、全国から366点の米が出品さ

れ、今年で6回目となった。県産ブランド米「つや姫」は決勝に勝ち残ったが、優勝はできなかった。本年度「つや姫」は特別栽培で作付けの条件として、宮城県・島根県・長崎県・大分県に2千ha作付けされている。



本物がためされる米コンテスト

産地間競争に勝つために「つや姫ブランド」をどう作り上げていくのか、この事業の見直しをしてはどうか。

町長 水稲栽培における土づくりの重要性は、農家の方々も認識されている。「つや姫」は、特別栽培として両農協とも町内で生産された有機堆肥を利用している。畜糞や生ごみを有効活用した循環型農業により、自然と環境に優しいという本町農産物のブランドイメージのアップを図ることは、高付加価値につながっていくと思う。

「おいしい米づくり推進計画」の改定を進めており、庄内町らしい「つや姫」の生産方法や販売の仕方、ブランド化について検討している。

指定管理者 学区公民館に説明不足  
教養 移行を前提としていない



榎本 秀将 議員

町は、各学区公民館に対して指定管理者制

度移行の第一段階として、公民館事業の交付金の説明会をした。しかし、その説明は第二段階に至るステップではないという曖昧なもので、地域づくり会議の役員からは、必要性を感じないという意見も出ていた。事業



地域づくり会議 第一公民館

を丸投げして維持管理費の抑制としか感じられない。

コスト削減が優先ではないこと、地域の自立、教育委員会との連携、これらをしつかり説明すべきではなかったか。

公民館事業の交付金化への移行に関する説明会では

交付金のほか、公民館係長の引き上げと公民館主事の増員、指定管理者制度の説明をしたが、特に指定管理者制度に関する質問が多かった。

この説明会の第一の目的は、公民館事業の交付金化に関する事で指定管理者制度への移行を前提としたものではない。将来的な方向性として示している指定管理者制度への移行は、多くの課題があり十分な検討を行っていく必要がある。

つや姫 土づくりを推進せよ

町長 2農協と検討する



佐藤 彰 議員

おいしい米づくり推進計画では「つや姫」を他の産地と差別化して売り出していく計画である。



大人気の「つや姫」

と共に作成し、品質・食味の向上に努めるべきである。

おいしい米づくり推進委員会の検討の中でつや姫の庄内町統一のブランド化について、町には二つの農協があり、それぞれの農協の思惑や戦略があるため統一化は難しいとの意見が出されている。

しかし、本年度の庄内各地の「つや姫」の※干粒重を比較すると新余目、立川産は平均より0.4g〜0.6g軽く、粒厚のない米になっている。重い所と比較すると、収量で40kgも減収している計算になる。早急に、土づくり、特にケイ酸資材を施用する栽培マニュアルを県の農業技術課の指導

では特にケイ酸資材の投入によるデータがはっきりと確認が取れた段階で、農協と協議することは問題ないと思う。そのうえで様々な分析をして、町としてやるのか、農協がどのように対応していくのかということも含めて考えていきたい。

公共施設 使う人の身になって

町長 バリアフリー化を検討する



工藤 範子 議員

町の「総合計画後期基本計画」には、「誰もが不便や不安を感じないような地域づくりを目指す」などの文章



バリアフリー化にほど遠い庁舎

公共施設のバリアフリー化の推進は、障がい者に配慮した体育施設や公園等の整備、視覚障がい者のための階段段差部等への注意を促すペイントの実施など対応を図っている。

各種福祉施設は古くなっており、役場庁舎の建設も検討を始める時期が間もなく来る。その時に、今抱えている課題の整理を総合的にやるべきではないかと思っている。福祉に係わる施設も、より使いやすく様々な機能を発揮するように判断していかなければならぬと考えている。

が記載されているが、バリアフリー化は一向に進まない。指摘した洋式トイレ、手すり、歩道の塗料等は、必要にせまられているので急ぐべきではないか。また、広域行政組合消防署余目分署は移転となる。その跡地活用にも、鶴岡市の複合施設「こころ」のような施設にしてはどうか。

地域づくり 交付金

成果はいかに

教養 工夫を凝らした事業展開



石川 恵美子 議員

「元気の出る地域づくりを応援します交付金」制度は、地域が自

ら考え、おこなう住民自治活動の支援をねらいとして施行されてきた。

内容として地域のリーダーとなる人材を育て機能的な組織づくりを含めた研修等の充実、公民館の開催事業や施設利用のネットワーク化等があると思う。

公民館の地域づくりの拠点となるような整備と充実、4年を経過したなかで、どのように検証されたのか。

各地区の地域づくり組織は交付金を受けて、地域の実情に合わせて工夫を凝らした事業を展開している。

交付金の目的は、各地区の特色を活かしながら、お互いに元気になっていくという考えである。各地区毎に交付金を財源にしながら、いろいろな発想をしているので応援していきたい。

地域のいいもの、どのように掘り起こして活動していくか、工夫して仕掛けていくかなど、自主的活動が育まれるよう、研修体制等も含めて考えていかねばならない。



活力あふれる、かがり祭り

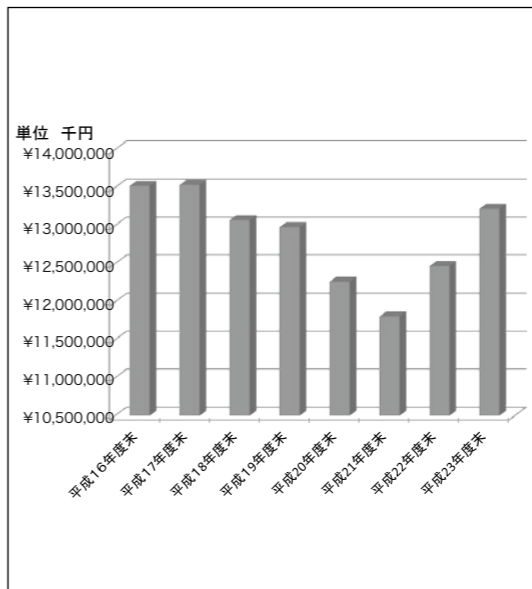
財政運営

町長 将来世代への負担を抑える



村上 順一 議員

財政健全化判断比率等の指標は、健全性を保っているが、※将来



右肩上がりの起債残高

負担比率107.7、※経常収支比率91.6、※実質公債費比率14.6は、全国の類似団体平均と比較して高い水準にある。起債残高は23年度末で132億円を超え、合併当初の財政計画に比べ6億円上回っている。特別会計への繰出し金23年度決算11億6千万円(歳

出の13.6%)は年々増加傾向にある。経常的経費の増大により、歳出構造の硬直化が進んでいる。健全性を保つため25年度予算編成はどのうするか。

町長 合併から7年が経過し、総合計画の後期計画も中盤となり、事業の見直しをしなければならぬ。次期総合計画の方向性も、優先順位を決めながら図っていくわけで、予算との関係はかなり厳しく見ていかねければならない。

国の補助・交付金制度を活用した中で総合計画の実現をめざす。本町の現状、あるいは町民ニーズを的確に捉え予算に反映していきたい。

また、将来世代への負担を最小限にするため、常に意識を高く持ちながら財政運営を行っている。

入札制度 透明性を確保せよ

町長 ルールには反していない



着々と工事の進む八幡スポーツ公園

会との信頼関係や入札の公平性を示すため、報告説明すべきではないか。

町長 八幡スポーツ公園建設工事の条件付き一般競争入札には町内9社から参加申し込みがあった。その後、業者が設計内容等を精査し、入札に臨むかどうかを判断することになった。従って、辞退してはならない。

入札の冷房機器のガスヒートポンプは、電気エアコンに比べて非常に高価で、単年度で整備すれば多額になる。更新費用の平準化を図るため、リース会社と賃貸借契約を締結し施工した。リース料は、議会への報告義務はないと理解している。



五十嵐 啓一 議員

八幡スポーツ公園建設工事は、条件付き一般競争入札をおこなったが9社が入札参加しながら6社が辞退をし

国保

町長 一般会計から操入れを基本的には避けたい



小野 一晴 議員

国民健康保険税が年々増加しており、ごく平均的な家庭で、年間所得の20%の税負担

をしている例もある。平均すると10%前後であり、※担税力の限界が迫っている。

町民の納税意欲を削がないで収納率を上げるために、各所得層にそれぞれの課税限度額を設ける施策を提案する。実現するためには一般会計から国保会計に操入れする法定外操

入れが必要になる。必要によっては、今後、この操入れを継続するべきと思うかどうか。

町長 本町では国保財政維持のため23、24年度に2段階で国保税を上げながら、基本的なルールのなかで一般会計から補てんをしてきた。国保加入者は町民の28%であり一般会計から補てんし続けることを、加入者以外の方々から理解していただくことは難しくなってきた。

来年度の国保会計の不足部分の対応は、国民健康保険運営協議会に諮問し編成する。対処療法としての法定外操入れは、基本的には避けたい。

国保制度自体の持続が、不透明な現状にあり社会保障制度改革を国保連の一員として要望している。

新幹線 町の対応いかに 町長 庄内全体の発展を考えて



どうなる 山形新幹線 延伸?

する町として、今後、どう対応するのか。

町長 庄内の発展を図るためには、道路と鉄路、空路の三つをしっかりと確立させていくことが基本的な考えである。庄内町は鶴岡・酒田の両市を見据えながら、庄内全体が発展する形を常に念頭に置いてきた。

羽越本線高速化の新潟駅の同番線化は大幅に延期になった。JR東日本の考えとして、山形新幹線の庄内延伸は、羽越本線の延伸よりJR貨物の関係もあり、可能性は高いのではないかとニュアンスであった。今後庄内全体を考え整理をしていきたい。



石川 保 議員

山形新幹線の庄内延伸については、「羽越本線の高速化が比較優位」とする県の基本方針が、2006年3月

に示されている。その後、具体的な進展は見られなかったが10月28日の酒田市長選挙で当選した市長は、交通インフラの整備を公約の第一に掲げ、山形新幹線の庄内延伸を明記している。

町の総合計画、庄内開発協議会の計画にもうたわれており、羽越本線、陸羽西線の交差



安心な医療を、これからも

※将来負担比率……将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率。
※経常収支比率……財政構造の弾力性を測定する比率。
※実質公債費比率……標準的な財政規模に占める借金返済額の割合。

# 9月号の視察結果報告を より良い町づくりのために 生かせ提言

総務  
常任委員会

## テーマ 行財政運営について

目的 本町の普通交付税は、平成28年度以降減少し、平成33年度には7億円の減少が予想される。将来的にも健全な財政運営を考える。

- 職員定員適正化計画
  - 主幹・課長補佐制度のあり方を再検討すべきである。
  - 指定管理者制度・業務委託など民間活力の積極的な導入をすべきである。
  - 均衡ある年次採用者となるよう若年層の職員確保をすべきである。
  - 類似団体との比較で

- 事務事業評価
  - 職員は厳しい財政状況、重要性を理解し、主体的に評価するよう意識改革すべきである。
  - 事業が本来の目的に合っているのか、評価検証するための明確な

- 外部評価により、多様な分野から意見を求め、また、専門的な視点で評価をおこなうことで透明性が高まることから、外部評価員を増やすべきである。

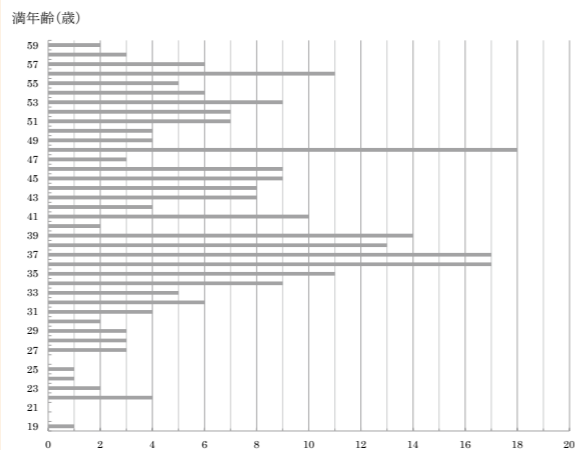
- 新・まちづくり計画
  - 次期総合計画との整合性を図りながら、庁舎の安全性を確保するために改築について検討すべきである。
  - 大型事業の実施年度と、財政計画を含めた優先順位を示すべきである。

## いよいよ提言しました(抜粋)

- 行財政改革の取り組み
  - 実施計画に基づき、事務事業の見直しや、町民ニーズに即した組織・機構の見直しを全庁的に取り組んでいる。
  - 職員定員適正化計画
    - 合併時298人の正規職員数は、平成24年4月時点で251人で計画より進んでいる。しかし、

- 庄内町の現況は(要約)
  - 正規職員は減少しているが、それ以外の職員は増加し正規職員とほぼ同数である。
  - 新・まちづくり計画
    - 安全性に問題がある役場庁舎や、大型事業の実施年度と優先順位、財政計画の見直しがされていない。

年齢別職員構成(平成24年4月1日現在 単位:人)



## 次世代につながる行財政運営

### 庄内町の現況は(要約)

- 行財政改革の取り組み
  - 実施計画に基づき、事務事業の見直しや、町民ニーズに即した組織・機構の見直しを全庁的に取り組んでいる。
  - 職員定員適正化計画
    - 合併時298人の正規職員数は、平成24年4月時点で251人で計画より進んでいる。しかし、

- 庄内町の現況は(要約)
  - 正規職員は減少しているが、それ以外の職員は増加し正規職員とほぼ同数である。
  - 新・まちづくり計画
    - 安全性に問題がある役場庁舎や、大型事業の実施年度と優先順位、財政計画の見直しがされていない。



今後を見ずして検討中

町長は来年7月任期満了になる。町長は立候補について「色んな人達と話し合ってから結論を出したい」と答弁されたが、「立候補したら良い」と言われたらするのかわからない」と言われたらやめるのか伺いたい。

平成13年12月定例会議録では、町長が議員当時、前町長への質問で「私はどんな立派な人でも権力の座に長くいれば、当然濁って



日下部 勇一 議員

町長選挙 立候補するのか  
町長 前向きに検討する

環境の変化が激しい時代であり、いろんな整理をしていかなければならない。整理を急ぎながら最終的な決断を出していきたい。町長選挙への立候補は、あくまでも前向きに検討しているという点にとどめさせていただきたい。

町長 選挙まで半年以上あるなかで整理すべきことが数多くあり、その整理を最優先にさせていただきたい。今後様々な方々とお会いする機会も多く、これまでのまちづくりや私の政治姿勢についてお聞きし、結論を考えた。

くるものと思う。ですから3期なんです。最長でも3期12年、これが私はいいい町長でいられる範囲と思っている。」と発言している。今もそう思っているのか伺いたい。

- 齋藤 健一 議員
  - 次期町長選挙に臨む姿勢について
  - 消防立川分署庁舎の改築について
  - 軽自動車税(農耕車)について
- 清野 等 議員
  - 通学路の安全点検について
  - 排水ポンプ車について
- 上野 幸美 議員
  - 男女共同参画社会計画について
- 齋藤 秀紀 議員
  - ハウス団地構想について
- 押切 のり子 議員
  - 地域活性化への体制整備について
- 榎本 秀将 議員
  - 商店街の活性化について
- 工藤 範子 議員
  - 公民館使用料について
  - 雪対策総合交付金について
- 村上 順一 議員
  - 危機管理について
- 五十嵐 啓一 議員
  - 町長との地域懇談会のあり方について
- 石川 保 議員
  - 冬道の安全確保について
- 小野 一晴 議員
  - 役場庁舎の有効活用について
- 日下部 勇一 議員
  - 平成25年度予算編成方針について
  - 組織の機構変更について
  - 重点プロジェクトの取り組みについて



新規導入された排水ポンプ車

## \*掲載できなかった質問\*



# より良い町づくりのために

# 生かせ提言

## 文教厚生 常任委員会

### テーマ 障がい者(児)福祉について

目的 本町でも障がい者が増加傾向にあり、きめ細やかなニーズに対応するためどのような支援体制が必要なのか、実態と今後の方向性を見出す。

## 産業建設 常任委員会

### テーマ 再生可能エネルギーについて

目的 本町でも再生可能エネルギーを生み出し、エネルギーの地産地消を進め、産業の振興・地域の活性化を図り、安心して暮らせる持続可能な社会を探る。

**障がい者の雇用**  
●企業との連携強化により、就業率が向上している事例もある。町は雇用活性化支援員を活用し、企業、団体などに各種施策・制度などを説明し雇用の拡大を図るべきである。  
**相談支援体制**  
●本町にある障がい者

## このように提言しました (抜粋)

施設各事業所に、相談支援専門員の配置をすすめる、保健師など専門知識を備えた、「障がい者福祉係」を設置し多様化する障がい者ニーズへの対応を図るべきである。  
また、障害の状態に応じた健康診断への対応、ボランティアの確

保、団体間の交流促進、庁用バスの活用など総合的な支援体制を急ぐべきである。  
**施設の環境整備**  
地域で福祉サービスを提供するには、施設の規模拡大や民間事業所の誘致や育成、先進事例による宿泊型施設の設置など、総合的な

支援策を検討すべきである。福祉サービスを担う事業を展開するには、経営の安定化が重要である。町と事業者間における情報の共有化、事業委託等の連携と協力体制の強化を図り、経営安定につなげるべきである。

**庄内町の現況は (要約)**  
障がい者の雇用について  
本町の、障がい者雇用状況は、平成24年4月時点で、民間企業14事業所において、19人が就労している。  
**相談支援体制について**  
障がい者の対象範囲拡大など、支援は広範囲になっているが、委託先の職員は1名体制である。不在時は委託

先他部署の協力を得ている。  
**施設の環境整備について**  
町内にはいくつもの福祉施設があるが、運営方式や支援方法に違いがあるなど、不満も出ている。また、事業によっては介助的支援が必要であり、ボランティアによる支援も求められている。



就労支援施設「みなみ」

## 地域の支援で社会参加をめざす

## このように提言しました (抜粋)

**風力発電の推進**  
●町営の風力発電設備の増設は議論の余地はあるが、民間事業者の取り組みを支援すべきである。  
●町内企業が計画している風力発電事業は、農用地転用が課題となっている。電力会社

との協議で時間的制約があり、町でも早急な対応が必要である。  
**太陽光発電の推進**  
メガソーラー発電には莫大な費用が必要で買い取りの枠も小さいことから、町では、再生可能エネルギーの普及や教育を目的に限定

すべきである。  
**次世代エネルギーパーク構想の推進**  
平成24年10月に認定を受けて、今後の展開が課題となる。  
町は「第二次新エネルギー総合利用計画」を昨年策定しているが具体的な実施計画を早

急に立てるべきである。  
**木質バイオマス資源の活用推進**  
小規模なボイラーは燃料の入手しやすいペレットが優位で、林業振興を図り原材料を地域で調達するならば、チップが優位である。

**庄内町の現況は (要約)**  
**風力発電について**  
「清川ダシ」を活用し、昭和55年から取り組み、8基が稼働している。町営風力発電1基は年間売電量280万kWhで3千381万円を予算化している。  
**太陽光発電について**  
自然エネルギーの活用のため、響ホールに出力10Kwの設備を、PRモニターと共に設

置している。  
**次世代エネルギーパーク構想について**  
平成19年に風車村を中心に本整備事業を策定したが、進展が見られなかった。東日本大震災後、国のエネルギー政策の転換が起こり、今までの本町の取り組みが評価され、次世代エネルギーパークとして認定された。



町営の風力発電

## 実現可能な再生可能エネルギー

# 未来を担う子どもたち

# 議会傍聴で学ぶ

## 庄内町立立川小学校 6年 叶野 愛羅

今回は、議会を見学させていただきありがとうございました。議員のみなさんははきはき意見を述べていて、とても聞きやすく、わかりやすかったです。制限時間もあり、私達がふ段話し合いをするようにいつまでも話し合えるのではなく制限時間内に話を終了させなければならないと分かり、びっくりしました。これからも、庄内町のまとめ役として、庄内町をより良く、住みよい町にしてください。私も庄内町の役に立つ大人になれるようにがんばります。

## 庄内町立立川小学校 6年 乙坂 颯

ぼくは、議会を見学して、1つ思ったことがあります。それは、「気持ち」です。ぼく達が楽しくらしている裏では、しっかりとぼく達の未来と安全を考えてくれていました。ぼくは、この気持ちに応えられるように、しっかり学習して身につけようと気を改めたいです。将来的には、世の中に役立つような人物、またはしっかりとした人物になりたいです。見学させていただき、本当にありがとうございました。

## 庄内町立立川小学校 6年 本間 舞

今回は、大変貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。場のきん張感に心がたかぶりしました。また町長さんや議員さんの話の中身が大変深く、しっかりと話の内容を明確に伝えていて、勉強になるなと思いました。議長さんは次に話す人をしゅんじに切りかえ、しっかりと議事をしきっている所がすごいなと思いました。今回学んだ事はいずれこれからの生活にやくだって行くと思うので、このことを忘れず、これからの生活に生かしていきたいです。



12月13日、午前中に立川小学校6年生(48人)、午後から余目第3小学校6年生(35人)のみなさんが授業の一環として議会傍聴に来庁しました。町当局と議員の難しい議論をまじめにメモを取っている姿、まなざしは真剣で頼もしくも、微笑ましい光景でした。その他にも12月14日、19日に庄内町栄寿大学、余目身体障害者福祉会等、多くの町民が傍聴に来庁しました。立川小学校からは児童一人ひとりが学んだことと感想をお礼のお便りとして議会にいただきました。その一部ではありますが紹介します。



## 庄内町立立川小学校 6年 難波 明日香

庄内町議会を見学させていただき、ありがとうございました。より良い町を作るために、町民の要望を取り入れてそれを取り組みに生かしているからこそ良い町ができているんだなあと思いました。それを近くで見ることができて、とても光栄でした。私たちが良い町を一緒に作るため、小さなことから始めていきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。



## 庄内町立立川小学校 6年 工藤 麗

私は、庄内町議会を見学して、いろいろなことを学びました。1つ目は、てきぱきと進んで間がなく話していることです。2つ目は、意見や質問がたくさん出てくることです。私は初めて議会を見学して、2つのことを学びました。見学して、とてもいい勉強になったし、議会のしくみがよくわかったので良かったです。議会に入る時、必ず礼をしてから入ることは、初めて知りました。



## 庄内町立立川小学校 6年 齋藤 恭平

庄内町議会の様子を見学させていただき、ありがとうございます。立川地区に関する疑問点や、庄内町全体に関する疑問点など、たくさん取り上げられていたのすごいなと思いました。また、議員さんや役場のみなさんによる話し合いが真けんに行われていて、すごいなと思いました。この話し合いによって、庄内町が良くなっていく事がわかりました。今日は、見学させていただきありがとうございました。これからもよろしくお願いします。